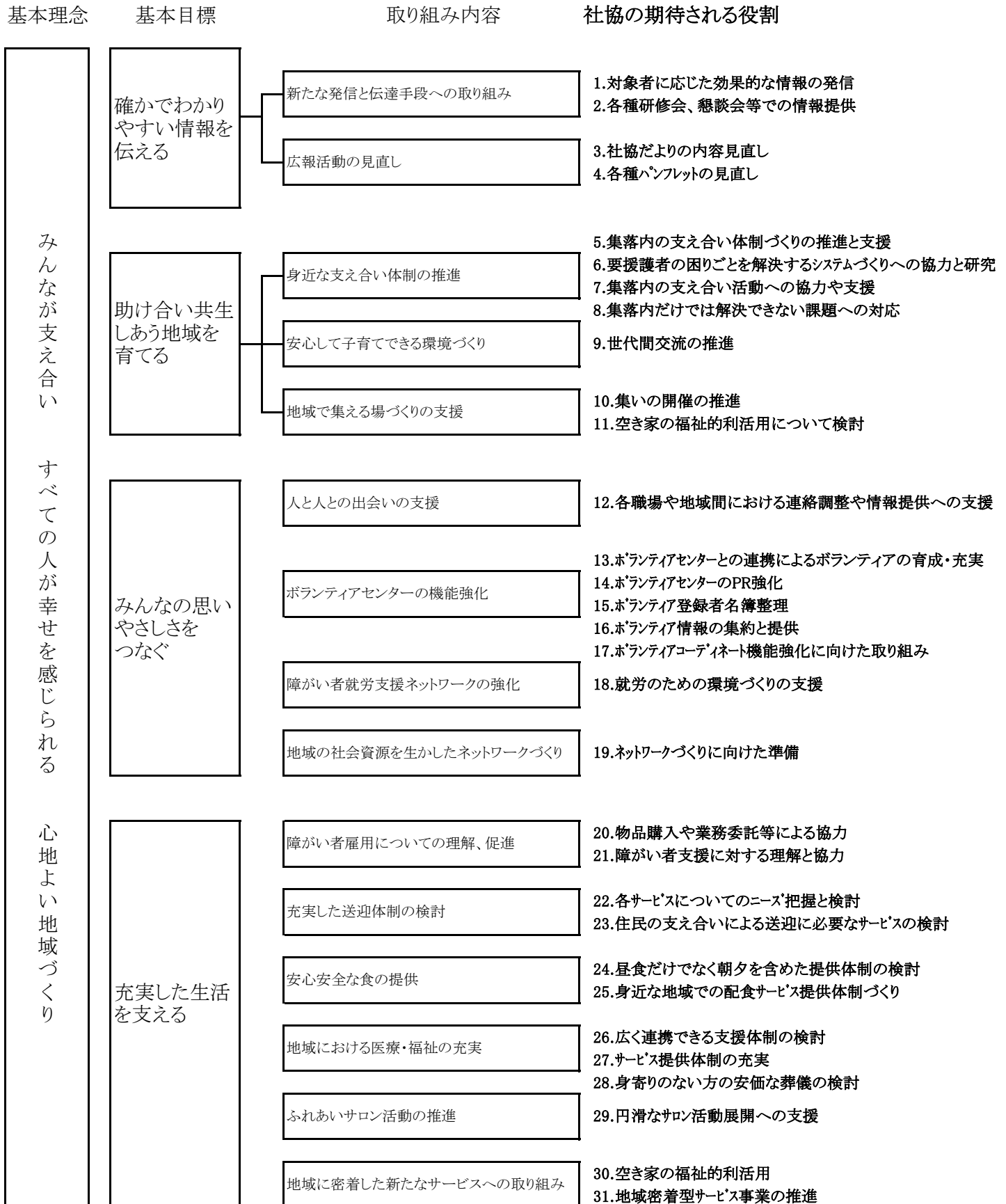


若狭町地域福祉活動計画体系図

地域福祉活動計画における社協の期待される役割を果たすため事業に取り組みます。



評価について

《評価方法》

社協の期待される役割に対して、どの程度達成できたかを評価するために、各部署で取り組んだ内容について利用者、利用者家族、関係機関、イベント参加者等を対象としたアンケート調査を実施し、その結果と自己評価を総合的に評価しました。

《評価ランク》

AランクからEランクまでの5段階とし、具体的な取り組みの成果について評価しました。

- Aランク：大いに成果を上げた
- Bランク：一定の成果を上げた
- Cランク：半分程度の成果を上げた
- Dランク：少し成果を上げた
- Eランク：ほとんど成果があがらなかった

《評価点》

評価ランクをもとに評価を数値化しました。

- Aランク:5点
- Bランク:4点
- Cランク:3点
- Dランク:2点
- Eランク:1点

《評価結果》

各事業の評価点をもとに、社協事業全体の評価点(平均値)は、3.29点で達成率は66%でした。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	小地域福祉活動推進事業
【基本目標】	助け合い共生しあう地域を育てる 充実した生活を支える
【取り組み内容】	身近な支え合い体制の推進 安心して子育てできる環境づくり 地域の社会資源を活かしたネットワークづくり 充実した送迎体制の検討 ふれあいサロン活動展開への支援
【期待される役割】	集落内の支え合い体制づくりの推進と支援 要援護者の困りごとを解決するシステムづくりへの協力と研究 集落内の支え合い活動への協力や支援 集落内だけでは解決できない課題への対応 世代間交流の推進 ネットワークづくりに向けた準備 住民の支え合いによる送迎に必要なサービスの検討 円滑なサロン活動展開への支援
【評価点】	2.5点 《達成率 50%》 (小地域福祉活動推進セミナー) 今回の講演は地区で活動されている事例について紹介し講演内容自体は良い評価をいただいた。しかし、平成25年度の各地域づくり協議会の取り組みの中で内容が活かされたとは言いがたい。 モデル集落の事例発表については、講演会よりも良い評価をいただき、内容や活動の意識も高まったように感じる。 開催が別のイベントと重なったこともあり、昨年と比較して参加人数が減少した。 (小地域福祉活動推進モデル事業) ■小地域福祉活動連絡会 今年度初の取り組みとして、モデル集落を集めた連絡会を開催、それぞれの集落の取り組みについて意見を交換することができた。 事務局側とすると、書面では読み取れない活動の状況や詳細が理解できて良かったが、モデル集落側からすると、他の集落の良い取り組みを聞いても今年度の実施計画が出来上がった状態での会議となったため、満足いくものにはならなかったのではないかと考える。 ■モデル集落の指定 社協が深く入り込んでモデル集落の取り組みを一緒に考える事ができなかった。

特に区役員が中心となり活動する集落等は、2年目以降となると、代表者やメンバーが交代することもあり協働した取り組みを持ちにくい。

モデル指定が終了した集落についても、活動は残っていても集落の行事となり残るだけで、活動組織がしっかり残るような環境ができていない集落が多い。

平成26年度指定の募集では、申請に向けた検討を6集落程度が実施され、モデル事業も集落の中で少しづつではあるが周知されてきているように感じる。

【今後の取り組み】

(小地域福祉活動推進セミナー)

平成26年度も継続して取り組む。

案内方法を見直す。

若狭町では、自治体や集落役員の決定権が大きいいため、自治会・集落単位で役員の意識を変えられるようなテーマ、案内方法でセミナーを計画する。

福祉的な活動から集落づくりを行うような事例

(小地域福祉活動推進モデル事業)

■小地域福祉活動連絡会

平成26年度は5月に開催し、モデル集落の指定が終わった集落にも参加してもらい、モデル集落として3年間活動した成果や、活動を振り返った時の反省などについて意見交換をすると同時に、各モデル集落の計画内容について意見交換を行うことで、よりよい活動づくりとなるよう実施する。

■モデル集落の指定

平成26年度指定からは、要綱の目的に活動の基盤づくりを追加すると同時に、モデル指定後の活動基盤の維持を指定条件に加える。

上記変更で、モデル指定期間中に職員が入りやすく、モデル指定後も福祉活動の組織として継続できるよう推進していく。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	福祉委員活動推進事業
【基本目標】	みんなの思い、やさしさをつなぐ 充実した生活を支える
【取り組み内容】	人と人との出会いの支援 地域の社会資源を活かしたネットワークづくり
【期待される役割】	各職場や地域間における連絡調整や情報提供への支援 ネットワークづくりに向けた準備
【評価点】	3点 《達成率 60%》 (地区単位での福祉関係者の連携に向けた取り組み) ■福祉委員研修会 今回の福祉委員研修会については、出席率も高く、沢山の内容を説明したが、熱心に聞いていただけた。 福祉委員の具体的な活動を知りたいとの声が多かった。 (地区福祉委員会の立ち上げに向けた検討) ■地区別福祉懇談会 各地区で地域づくり協議会が立ち上がり、形の上では地区毎の組織が誕生した。そこで平成25年度は社協主催の福祉懇談会を各地区1回開催する予算を持ち、地域づくり協議会、福祉課と連携した懇談会を開催した。 結果、地区によっては毎月定例会を実施するところや、懇談会を3回実施出来たところもあったが、地区によっては1回のみの実施となり差があった。 また、地区によっては、平成24年度までの取り組みをうまく地域づくり協議会に引き継ぐことが出来なかった地区もあった。
【今後の取り組み】	(地区単位での福祉関係者の連携に向けた取り組み) ■福祉委員研修会 平成26年度は、任期2年目となるため福祉委員研修会としては実施しない。 (地区福祉委員会の立ち上げに向けた検討) ■地区別福祉懇談会 平成26年度も、地域づくり協議会と連携した活動を基本として引き続き連携がとれるよう懇談会を開催していく。 また、福祉課だけでなく政策推進課とも連携をとりながら、地域づくり協議会と福祉関係委員が連携をとった活動ができるよう推進していく。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	ふれあいサロン推進事業
【基本目標】	助け合い共生しあう地域を育てる 充実した生活を支える
【取り組み内容】	安心して子育てできる環境づくり 地域で集える場づくりの支援 ふれあいサロン活動の推進
【期待される役割】	世代間交流の推進 集いの開催の推進 空き家の福祉的利活用について検討 円滑なサロン活動展開への支援
【評価点】	3点 《達成率 60%》 (ふれあいサロン活動の推進と支援) 要望があった集落については、レクリエーション用具の貸出、職員の派遣、運営に関する相談には対応出来たということで、ある程度は達成できた。 (ふれあいサロン送迎〈サービスの実施と改善〉) 送迎については希望どおり実施することが出来、ある程度は達成できた。
【今後の取り組み】	(ふれあいサロン活動の推進と支援) 現状のサロン団体に対して、25年度同様に対応する。 (ふれあいサロン送迎〈サービスの実施と改善〉) 現状維持。少数サロンでの送迎については、引き続き地域で支える送迎サービス車両をサロン送迎に利用してもらい、少しでも緩和出来るよう促していく。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	外出支援サービス事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	充実した送迎体制の検討
【期待される役割】	各サービスについてのニーズ把握と検討
【評価点】	2点 《達成率 40%》 (外出支援サービス事業の見直し) ・24年度の課題であった外出支援の多様な使い方(緊急利用、通院以外の新しい使い道)については決まっていない。 ・利用者から運転手によってサービスに差(移動介助をする、しないなど)があることが分かり、利用者が運転手を指名することがあった。 ・運転手同士で話し合いの場を設け、サービスに対する意識統一を図れたのは良かった。
【今後の取り組み】	(外出支援サービス事業の見直し) ・利用者が不安を覚えるような運転、接遇をしないように運転手に安全運転とルールを遵守するよう指導していき、利用者が安心して使いやすい外出支援サービスとなるよう、福祉課と連携しながらサービスを提供する。 ・26年度も運転手の意見交換、情報共有の機会を持つ。 ・通院以外のサービス(希望の多い入退院時の利用など)を検討する。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	福祉バス(サロンバス)運営事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	充実した送迎体制の検討
【期待される役割】	各サービスについてのニーズ把握と検討
【評価点】	<p>3点 《達成率 60%》 (サロンバスのニーズに合わせた柔軟な対応) サロンバスに対するニーズ調査を行った結果、どの項目においても満足されている方がほとんどであったため。 鳥羽地区より、運行時間及びルートについて要望書が提出されたことを受け、H26.4～海士坂及び三生野ルートについて運行時間・ルートの変更を実施したため。 しかし、昨年度と比較して利用者が減少したため。 H24 7,170名 → H25 6,410名</p>
【今後の取り組み】	<p>(サロンバスのニーズに合わせた柔軟な対応) アンケートの結果、他のルートについても要望があったため、変更も視野にれて検討を実施。</p> <p>【課題】 他の公共交通機関の運行との関係。 町としてはオンデマンドバス導入を考えており、今後の動向を見ながら検討する必要がある。</p>

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

- 【事業名】** 日常生活自立支援事業
- 【基本目標】** 確かでわかりやすい情報を伝える
助け合い共生しあう地域を育てる
充実した生活を支える
- 【取り組み内容】** 新たな発信と伝達手段への取り組み
身近な支え合い体制の推進
地域における医療・福祉の充実
- 【期待される役割】** 対象者に応じた効果的な情報の発信
集落内の支え合い体制づくりの推進と支援
広く連携できる支援体制の検討
サービス提供体制の充実
- 【評価点】** 4点 《達成率 80%》
(日常生活自立支援事業の推進)
契約件数が増加したため。
H24 2件 → H25 8件
研修や連絡会には、積極的に参加し、理解を深めることができたため。
- 【今後の取り組み】** (日常生活自立支援事業の推進)
事業の特性上、本人からの相談は少なく、関係機関からの相談が多い。今後も関係機関や民生委員に向けての広報活動を実施していくとともに、住民にとっても身近に感じてもらえるよう広報誌等を活用した広報活動を行う。
【課題】 契約数の増加による生活支援員の不足。
今後も研修会や連絡会については、積極的に参加し、支援の向上に努める。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	ボランティアセンター運営事業
【基本目標】	確かでわかりやすい情報を伝える 助け合い共生しあう地域を育てる みんなの思い、やさしさをつなぐ
【取り組み内容】	新たな発信と伝達手段への取り組み 身近な支え合い体制の推進 ボランティアセンターの機能強化
【期待される役割】	対象者に応じた効果的な情報の発信 集落内の支え合い体制づくりの推進と支援 ボランティアセンターとの連携によるボランティアの育成・充実 ボランティアセンターのPR強化 ボランティア登録者名簿整理 ボランティア情報の集約と提供 ボランティアコーディネート機能強化に向けた取り組み
【評価点】	2点 《達成率 40%》 (ボランティアセンター登録者名簿の有効活用) 名簿の更新を行なうことで常に新しい情報は入ってくるが、その情報を活用することができなかった。また、分野によって登録者数に偏りがある等、ボランティア募集や派遣の相談があってもうまくコーディネートできなかった。 団体登録に関しては、センターから情報提供することもなくただの登録のみになっていた。 (誰でも気軽に利用できる拠点づくり) ボランティア情報コーナーの設置は行なったが、何も掲示していないときもあり、住民が気軽に見たい、立ち寄りたと思う整備には全く至らなかった。 (ボランティアコーディネートの機能強化) ボランティアセンターのPRを含め、住民への働きかけが不十分であり、ボランティアニーズ調査も未実施であった。十分なニーズの掘り起こしと人材発掘のバランスが取れておらず、コーディネートができていない状態だった。 (ボランティア活動の推進) ボランティアの日の取り組みの他に、長期的な出前講座の実施による福祉教育推進など、新たな取り組みができ好評であった。「ボランティアの日」もイベントとして内容的には大変好評であったが、定着化に向けた取り組みはできず、昨年と同様の取り組みで終わってしまった。「ボランティアの日」がきっかけで新たなボランティア活動につながったとは言い難い。

【今後の取り組み】

(ボランティアセンター登録者名簿の有効活用)

(1) ボランティアセンター登録の呼びかけ

登録者数の減少が著しく、登録者の高齢化が進んでいる。若い世代(20~40代)の方にも積極的に登録の呼びかけを行なう。また、団体登録も呼びかける。

(2) 登録者名簿の更新(1年ごと)

(3) 定期的なボランティアニーズ調査再開

調査を実施することで、ニーズの発掘だけでなく、センターについて知ってもらう。

(4) ボランティアセンターPR

(誰でも気軽に利用できる拠点づくり)

(1) 地域特性に応じた整備の推進

(2) 情報コーナーの充実

ボランティア情報だけでなく、助成金情報など多種多様な情報を展示する。

(3) ボランティアセンターPR

(ボランティアコーディネートの機能強化)

(1) 的確かつ迅速なコーディネート方法の確立

(2) 対象者に合わせた情報提供の確立

メール配信の開始、定期的な『ぼらふぁん』の発行等

(3) 「ボランティア出前講座」の継続実施

各団体、学校に合わせた多種多様なプログラムの検討と社協としての関わる基準の明確化。小中学校への周知活動の徹底。

(4) 定期的なボランティアニーズ調査再開

調査を実施することで、ニーズの発掘だけでなく、センターについて知ってもらう。

(5) ボランティアセンターPR

(ボランティア活動の推進)

(1) 「ボランティアの日」定着化に向けた取り組みの検討

(2) 「ボランティア出前講座」の継続実施

各団体、学校に合わせた多種多様なプログラムの検討と社協としての関わる基準の明確化。小中学校への周知活動の徹底。

(3) 住民のニーズに合わせたボランティアイベント、研修会の検討、実施

(4) ボランティアセンターPR

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	共同募金委員会事業
【基本目標】	確かでわかりやすい情報を伝える 助け合い共生しあう地域を育てる
【取り組み内容】	新たな発信と伝達手段への取り組み 広報活動の見直し 身近な支え合い体制の推進
【期待される役割】	対象者に応じた効果的な情報の発信 各種研修会、懇談会等での情報提供 社協だよりの内容見直し 各種パンフレットの見直し 集落内の支え合い体制づくりの推進と支援
【評価点】	2.75点 <達成率55%> (公開審査の推進) 2年目の今年も助成をうける団体と寄付者の交流というところに重点を置き、『赤い羽根共同募金交流会』を開催し、アンケート結果からも総じて好評であったため。 (住民の共同募金への参加促進) 『赤い羽根共同募金交流会』においても周知、PRを実施。街頭募金運動も、中学生や助成団体に参加してもらった。 (メディアの活用) ケーブルTVでの呼びかけを行ったが、結果的に放送する団体がなかった。 (寄付者の思いに沿った助成事業の実施) 生活困窮者支援という観点から「歳末たすけあい配食事業」の対象を生活保護受給者に変更。また、同じく歳末たすけあい募金より台風18号被害の被災者に復興支援金を配布。
【今後の取り組み】	(公開審査の推進) 内容的にも総じて好評であったため継続実施する。新規の申請団体も模索する。 (住民の共同募金への参加促進) 今年度も『赤い羽根共同募金交流会』、中学生や助成団体には街頭募金等に協力依頼する。中学生にはそれぞれ家族がいるので、子どもや孫が街頭募金に参加すると聞けば自ずと、参加促進につながるの幅広い世代に地道なPRが必要。また、街頭募金場所についても、三方、上中各2ヶ所ずつにしPRすることを検討する。 (メディアの活用) 主旨を理解してもらい、今年度も継続して協力を促す。 (寄付者の思いに沿った助成事業の実施) 助成事業については、前年の反省もふまえ活動計画の内容も考慮し実施していく。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	ふくし資金貸付事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	サービス提供体制の充実
【評価点】	<p>4点《達成率 80%》 (相談業務の確立) 昨年度に引き続き、個別ケースファイルを作成し、相談記録の整備が実施できたため。 関係機関と連携し、生活支援につながる相談がある程度できたと思われるため。 (調査委員会の定期開催検討、実施) 心配ごと相談員連絡会での事例紹介を行い、調査委員へのアンケートでも参考になったとの回答が多かったため。 民生委員改選後には、勉強会を実施したため。</p>
【今後の取り組み】	<p>(相談業務の確立) 引き続き個別ケースファイルの作成を行う。また、研修会等へは積極的に参加し、相談支援のスキルアップを目指す。相談に至った背景等についても聞き取るなど、丁寧な対応を目指す。 【課題】担当者不在時の対応。 (調査委員会の定期開催検討、実施) 今年度に引き続き、心配ごと相談員連絡会にて事例紹介を実施。民生委員が改選されたこともあり、生活福祉資金について理解を深めてもらえるような連絡会を目指す。 【課題】調査委員会にかける事例が少ないため、制度を身近に感じてもらえない。</p>

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	支援ハウス運営事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	<p>4点《達成率 80%》 (利用者の幅広いニーズに沿った運営) 長期と冬期の入居者に評価実施し、おおむねの満足を得られている。</p> <ul style="list-style-type: none">・年間のべ利用者129名(昨年比2名増)・要介護者の受け入れを行った・短期入居の受け入れを行った・重度の要介護者であっても、対応策を検討して、短期で緊急の受入対応を行った。 (個別対応や長期入居などの充実に向けた検討) <p>長期と冬期の入居者に評価実施し、おおむねの満足を得られている。</p> <ul style="list-style-type: none">・入居者の現状は、自宅復帰へ向けた方はほんの一部の方であるが、入居者の動ける部分を活かしていく自宅復帰に向けての、自立支援活動サービスを8月から実施しはじめた。・トイレに手すりがあつてとてもよい(1部屋だけ壁に手すりがついている)・居室はきれいで、入居前の説明時にも好評である。・食事の場所がドアや間仕切りのないところなので、寒いという意見がある。・食事はいつも美味しい、と好評である。 <p>【外部評価より】</p> <ul style="list-style-type: none">・自宅復帰に向けての生活訓練の様子がわからない。・経済的に心配を抱かえている方もおられ、心身ともに安心して利用できるという意見あり。
【今後の取り組み】	<p>(利用者の幅広いニーズに沿った運営)</p> <ul style="list-style-type: none">・居室料の検討を町にしてもらう。・民生委員さんを通じて生活支援ハウスの説明と居室の利活用を促していく。・需要があれば要介護の方の短期受入を実施する。 (個別対応や長期入居などの充実に向けた検討) <p>・入居者の個別の要望に合わせて、必要であれば、自宅復帰に向けての生活訓練をしていく。</p> <p>・冬期には二人部屋に他人同士で相部屋という使い方を実施し、入居者同士のいざこ</p>

- ざもなく良かったが、トイレの共有などもあり、理解を求めていく。
- ・入居判定基準の見直しを町と話し合う。
 - ・入居希望の方の在宅に戻れない現状として、家族の、離れて暮らしているからだけでなく、親子であっても介護の意識の薄さが受け取れる。しかし施設入所に踏み込めない現状や一緒に暮らせない、近くに住むなどの行動がとれないという方が多いため、入居者の現状報告をして、介護の方向性の検討を促していく。
 - ・自立支援活動サービスの様子をご家族や、担当ケアマネに広報誌などで報告する
 - ・支援ハウス入居時のメリットを紹介していく。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	リラクゼーション施設運営事業
【基本目標】	確かでわかりやすい情報を伝える
【取り組み内容】	広報活動の見直し
【期待される役割】	各種パンフレットの見直し
【評価点】	<p>2点《達成率 40%》 (住民への周知)</p> <ul style="list-style-type: none">・風呂の認知度は評価をあげられるが、昨年に比べて入浴利用者の減少がある。総人数で446名の減。町内で299名の減。回数券利用者で255名の減。回数券購入枚数で26部の減。・昨年度に比較して常連客の利用減少が見受けられる。・カットハウスは早朝から待っておられたり、リピーターが多いことが見受けられる。 (施設の有効利用と新規サービスの検討)・改善点として、お湯の温度があげられるが、ぬるい・熱いと正反対に分かれるため、現状の温度の対応が良いと思われる。施設の有効利用としてマッサージスタッフが曜日限定で常駐することができたが、昨年と比較して利用客が78名の減。・マッサージチラシのリニューアルが出来なかったため、住民周知、来館者へのPRに役立てられなかった。・飲食可能にしてほしいという意見から、午後1時からの入浴利用者と食事の方たちが重ならないようにするため、サロン利用として2組程度であった。・タイル・タイル目地修繕実施が出来た。・施設の改善希望案として、露天風呂・サウナ・二つの浴槽などがあげられる。
【今後の取り組み】	<p>(住民への周知)</p> <ul style="list-style-type: none">・常連客減少歯止め対策として、受付シルバースタッフの接客方法の改善をしていく必要もあると思われる指導していく。(受付スタッフへの苦情と、接客が笑顔で親切という声の両方がある)・常連客対象にアンケートを実施したり、意見箱の設置をする。・カットハウスは、他の場所への応援の為、臨時休業もあり、利用客への不都合がある。 スタッフ不足が考えられ、委託業者に対応を検討してもらう。 (施設の有効利用と新規サービスの検討)・施設使用料の見直し・PRチラシの作成と、配布実施・休憩室(和室) マッサージコーナー共有スペースの有効活用。・マッサージ曜日が木、金曜日のみになるため、新しいセラピストの参加を促していく。・和室休憩室の有効活用を検討していく。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	食事サービス事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	安心安全な食の提供
【期待される役割】	昼食だけでなく朝夕を含めた提供体制の検討 身近な地域での配食サービス体制づくり
【評価点】	<p>3. 55点≪達成率 71%≫ (食事サービス対象者のニーズ調査) 配食利用者36名対象にアンケート(70%回収)味・盛付。価格・特別食の内容について問うた結果・・・おいしい・満足している等の回答が多かった。 (朝昼夕の配食の取り組み) 夕食希望が5件あがり、要望に応じて対応。昼食と一緒に配食。夕食分は冷却をして配達時に冷蔵庫に保管。必要に応じて土日の対応実施(配達はできないため取りに来られる) (共同募金を活用してお弁当補助を考える) 今年度は生活保護者が対応になったため配食利用者の「おせち補助」はなかった。 希望が多かったため実費で実施(半数の方が利用) (真空調理の研究と拡大・特別食の充実) みさきの食事、土日の配食利用者の食事対応特別食対応(減塩食・ムース食・きざみ他) 【アンケート結果より】 ・特別食は希望通りになっていますか？10名中9名の方が満足・概ね満足(1名回収×) ・メール便の無い連休などの時はあらかじめ3～4日分をストックして対応。 (ボランティアの輪 呼びかけ) 社協だよりにてボランティア募集。ボランティア試食会実施。ボランティア同士で地域に呼びかけ。 (選択メニュー方式の取り組み) バイキング実施。各事業との共同企画(検討会開催)し挑戦しました。</p>
【今後の取り組み】	<p>(食事サービス対象者のニーズ調査) 利用者の声を大切にしていよいよおいしいお弁当を作る。 (朝昼夕の配食の取り組み) 1～3月に利用が急増。ニーズに対応できるような体制作りをする。 (共同募金を活用してお弁当補助を考える) 行事食など年に1回～補助できるように検討する。 (真空調理の研究と拡大・特別食の充実) 複雑な作業になるため、計画的に取り組む。 (ボランティアの輪 呼びかけ) ボランティアとの日頃の対応の場や、試食会意見交換の場を大切にする。 (選択メニュー方式の取り組み) 新しい企画に挑戦する。費用面について検討する。</p>

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	葬祭事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	身寄りのない方の安価な葬儀の検討
【評価点】	<p>4点《達成率80%》 (すべての人が安心して故人様をお送りできるサービスの充実) 斎場予約対応、マイクロバス送迎対応、霊柩車の対応、斎場での職員の対応について、アンケート結果では、よかったとの回答が7割、不満と答えた人は1.6%。たくさんのお礼のコメントをいただいている反面、マイクロバスの小型化が利用者に浸透しておらず不満につながる意見、職員の対応が無表情との意見あり。 簡易葬は検討委員会で審議が尽くされ進捗なく実施に至っていない。</p>
【今後の取り組み】	<p>(すべての人が安心して故人様をお送りできるサービスの充実) 4月1日よりマイクロバス運行協力金をお願いすることとなり、実質の有料化がどう影響してくるか予測できない。今後出てくる課題について、その都度検討して取組んでいく。全てにおいて、利用者の心に寄り添った対応をし、更なるサービスの向上を目指す。 簡易葬のニーズについては、半数が利用したいと回答しているが、「斎場での葬儀はみじめである」や「簡素にしたいなら自宅ですればよい」などの意見があり、受け止め方が二分している。アンケートの質問形式を改善し、引続きニーズ調査を継続していく。</p>

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	居宅介護支援事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域の社会資源を活かしたネットワークづくり 地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	ネットワークづくりに向けた準備 広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	<p>3. 8点≪達成率76%≫ (安心した在宅生活の維持)</p> <ul style="list-style-type: none">・訪問による相談、介護保険サービスの説明、書類手続きの援助、言葉使いや態度への誠実さ等の項目については、利用者、家族からも「だいたい出来ている」以上の評価を80%以上頂き、対応の丁寧さや利用者と共に添う姿勢など、安心した在宅生活を維持する上での支援として、評価して頂いている。・サービス担当者会においては、昨年の課題にもなっており、開催への努力も見られるが、事業所からも個々のケアマネにより開催頻度に差があると指摘があった事、1度も参加したことがないとの回答が1件あった事も踏まえ、まだ不十分と思われ、引き続き今後の課題にあげる必要がある。・担当者間の連携については、「出来ていない」回答が0であり、事業所からの評価も高く頂いた。 <p>(職員の資質向上)</p> <ul style="list-style-type: none">・業務内だけでなく、自主的な研修参加もあり、個々のケアマネで意識を高め研修参加に努めることも出来た。又、他職種連携の研修への参加も積極的であり、顔の見える関係を築くことにも取り組めた。一方、「参加できなかった」回答もあった為、一人ひとりの参加意識も高めていく必要がある。・月1回のケアミーティングを短時間で行う事で焦点を絞った事例検討を行う事が出来ている。ミーティング時間に限らず、事例について検討を行っている。
【今後の取り組み】	<p>(安心した在宅生活の維持)</p> <ul style="list-style-type: none">・担当者会議を更新時、変更時、緊急時に開催し、本人・家族の出席を呼びかけ、本人・家族の思いをサービス担当者間で共有し、安心できる在宅生活へと結びつける支援を行う。必要に応じて、インフォーマルな支援としての地域支援とも連携できる体制作りを担当者会議を通じて行う。・医療サービスや生活支援の制度等を必要とする方や、家族関係の複雑な事例が増えているため、医療機関、行政、地域との連携を図る。

(職員の資質向上)

- ・多職種連携に関する研修への参加
- ・ケア会議等身近に参加できる研修において、内容によっては多数で参加する体制をとると共に、H25年度の取り組みであった、1名が参加し、内容について他職員に確実に伝える事についても継続して取り組む。
- ・机上においても事例を検討し合える様、主任の在席時間をある程度決めておき、関係作り、雰囲気作りに努める。
- ・担当者会議の資質向上を目的に他ケアマネの担当者会議に同行し、視野を広げ、技術向上を目指す。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	通所介護事業パレア若狭
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	<p>3. 7点≪74%≫</p> <p>(日常生活動作を維持できるよう質の高いサービス提供を目指す) 介助方法等については、アンケート調査から高い評価を受けることが出来た。 個々に合わせた介助方法を、情報交換により検討して実践できた。 (医療・福祉サービスとの連携を深め、サービス向上を目指す) 関係機関との連絡調整については迅速な対応が出来た。 (要介護者の心身の特性を踏まえ、在宅生活が維持継続できるよう支援する) 自立支援が目的だが、必要以上の介護を提供している。自宅での意欲向上に繋がる内容の支援が出来ていなかったと思う。 (介護から快護へ) 利用者からは高評価を受けているが、スタッフからの視点は充分出来ていないという意見があった。 (リハビリテーションの推進) 集団レクリエーションでは体操やゲームを取り入れて活動しているが、マンネリ化している。個別で歩行訓練を行う対応をとった。 (活動しやすい環境づくり) 地域社会との交流が出来たり、顔なじみのボランティアの方とのふれあいで安心できる場所作りが出来た。 (多様化するサービスニーズへの対応) 利用者のペースに合わせ意思尊重が出来たり、介助方法を個々のケースにあわせて対応できた。</p>
【今後の取り組み】	<p>(日常生活動作を維持できるよう質の高いサービス提供を目指す) 日々変化する利用者の状況を把握できるよう、さらに情報の共有が出来るようにしたい。 介護技術の向上も目指す。 (医療・福祉サービスとの連携を深め、サービス向上を目指す) 各種関係機関との連携方法についての見直しについては昨年からの課題であり、担当者が情報を一括収集できる体制をとりたい。 (要介護者の心身の特性を踏まえ、在宅生活が維持継続できるよう支援する) デイ本来の目的が、自立支援であるという事を再度認識。 在宅生活に繋がるサービスを提供して、利用者の意欲向上を目指す。</p>

(介護から快護へ)

各種のサービス内容を充実させるために、利用者や家族とのコミュニケーションを図り個々に合わせたケアを受け入れていく。

(リハビリテーションの推進)

体操の内容を充実させ、毎日実践できるプログラムとして検討していきたい。

広い場所を活用して、歩行訓練に取り組む。

(活動しやすい環境づくり)

季節に応じた行事・創作活動を取り入れたり、外出などで季節感を味わうことができるような工夫をする。

(多様化するサービスニーズへの対応)

利用者、家族からのニーズを受け入れるために、体制を整えておく必要がある。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	通所介護事業いずみ
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	<p>3. 8点≪達成率76%≫</p> <p>(日常生活動作を維持できるよう質の高いサービス提供を目指す)</p> <p>月曜日開業してほしいとの声があった。生活に密着した支援が行えた。料理作りや畑、特に菜園で収穫した野菜での料理作りで、男性利用者さんにも包丁を持っていただいたり、生活リハビリに力を入れることができた。利用者満足度も高かった。</p> <p>(医療・福祉サービスとの連携を深め、サービス向上を目指す)</p> <p>医療関係との連絡は密に取ることができなかった。</p> <p>(要介護者の心身の特性を踏まえ、在宅生活が維持継続できるよう支援する)</p> <p>その日の送迎、入浴その他のサービスで利用者の変化を職員間で報告できなかった。</p> <p>内部研修(緊急時の対応)をもう少し強化しなければならなかった。</p> <p>(介護方針の統一)</p> <p>日々利用者の体調などが変わり、全員に統一した介護ができていなかった。勉強会(内部研修会)ができなかった。ミーティング時間を多く取り、納得のいく介助を行なった。</p> <p>(利用者満足度の向上)</p> <p>大変親切にしてくれる。少々の風邪でも入浴したい。送迎時間に差が出た場合は知らせしてほしい。昼食のメニューも満足している。外出も行けて楽しい。大半の方に、職員の対応に大変満足していただいている。</p>
【今後の取り組み】	<p>(日常生活動作を維持できるよう質の高いサービス提供を目指す)</p> <p>ADLからQOLを目指していけるようなサービス、外に出るデイサービス(地域密着型)を目指していく。利用者、家族の声(満足度)を形にしていくサービス作り。</p> <p>(医療・福祉サービスとの連携を深め、サービス向上を目指す)</p> <p>家族、ケアマネージャー同意のもと、主治医との連携を図る。</p> <p>他福祉サービスとの交流を図る。(家族介護教室や職員内部研修を行なう)</p> <p>(要介護者の心身の特性を踏まえ、在宅生活が維持継続できるよう支援する)</p> <p>個々のリハビリの強化、心身の状態に合わせた介護の統一を行なう。</p> <p>報告業務の徹底を図る。</p> <p>(介護方針の統一)</p> <p>内部研修を行なう。利用者の身体状況に合わせ短時間一人のカンファレンスを行なう。パート職員の報告業務リーダーを決め報告業務、介護方針変更等の業務の徹底を図る。</p> <p>(利用者満足度の向上)</p> <p>アンケートの要望に応えていけるサービスを行なう。何を利用者、家族が求めているのか判断し、昨年以上の満足のいくサービス、支援を行なう。</p>

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	通所介護事業五湖の郷
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	<p>3. 5点≪達成率70%≫ (日常生活動作を維持できるよう質の高いサービス提供を目指す) 特技や趣味を取り入れた活動内容(図書の利用等)を提供し、一定の成果をあげた。 (医療・福祉サービスとの連携を深め、サービス向上を目指す) ケアカンファレンスへの参加や他職種連携会議への参加はしたが、デイサービスからの積極的な働きかけを行う機会が少し足りなかった為。 (要介護者の心身の特性を踏まえ、在宅生活が維持継続できるよう支援する) 利用者状況を把握する為、ミーティング等を多く実施する事ができた。 (情報共有・心身機能維持・精神負担軽減) 利用者情報等共有できたが、細かな部分についてまではもう少し改善が必要である為。 (ノーマライゼーションに向けた世代間交流) 継続して月1回の梅の里保育園との交流会を実施でき、利用者さんも喜ばれていた。 障がいデイとの合同レクについて、実施できる機会が少なかった。 (信頼関係づくり) 利用者・ご家族の方からの要望等(例:曜日外利用)に応えられるようサービスを実施したが、こちらの働きかけ等が必要である為。</p>
【今後の取り組み】	<p>(日常生活動作を維持できるよう質の高いサービス提供を目指す) 引き続き日常生活動作の維持に繋がられるように様々な活動を提供していく。 (医療・福祉サービスとの連携を深め、サービス向上を目指す) サービスの連携強化を図る為、積極的にカンファレンスへの参加・開催を働きかける。 (要介護者の心身の特性を踏まえ、在宅生活が維持継続できるよう支援する) ミーティング等継続して個々の状態把握に努める。 (情報共有・心身機能維持・精神負担軽減) 情報共有を密にし、より細かな部分についても見直しをしていく。 (ノーマライゼーションに向けた世代間交流) 保育園との交流会は継続して実施し、より内容の濃いものにする。 障がいデイと月1回(毎月10日前後に)年間行事として実施していく。 (信頼関係づくり) より良い信頼関係を築いていけるように、コミュニケーションをしっかりと取り、良い雰囲気づくりに努めていきたい。</p>

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	障がいデイサービス事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	障がい者就労支援ネットワークの強化 障がい者雇用についての理解、促進 地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	就労のための環境づくりの支援 物品購入や業務委託等による協力 障がい者支援に対する理解と協力 広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	3. 6点≪達成率72%≫ (利用者のニーズに合った活動プログラムの充実) ■個々のニーズに合わせた個別支援計画の充実を図るため、利用者のニーズに寄り添った対応ができるように、ニーズの再確認とともに活動内容の見直しを行なった。 ■個々の状態に応じたオリジナリティある活動の充実を図るため、体操やダンスといった体を動かす活動は充実したが、身体障害者に対するレクリエーション内容は満足できるものではなかった。 ■生産活動(畑作業、自販機補充、空き缶潰し)等を通じての社会経済活動への参加促進を図るため、生産活動時間を1時間拡大することで、作業内容の充実に繋がった。 ■日中における活動の場の確保と、日中一時支援事業(放課後デイ・長期休暇スクール)においては、児童の年齢が上がってきたことで、活動内容や活動範囲の見直しを行なった。 (支援及び介護技術の研修等の充実) ■職員のスキルアップを目指し、園芸療法に通隋する研修、職業相談支援に関わる研修、新法及び制度等の学習の場に参加している。 ■相談支援事業所との連携を図り、定期的にケース会議を行なった。
【今後の取り組み】	(利用者のニーズに合った活動プログラムの充実) ・集団活動の場で、個々のニーズに合った活動を展開していく。 ・作品展への出展や資格習得に向けた活動を企画していく。 ・生産活動内容の充実。 ・工賃支給の体制作り。 ・生活介護の利用者と交流できる機会を増やしていく。 (支援及び介護技術の研修等の充実) ・職員同士で支援方法について話し合い、研修で学んだ事を現場で活かしていく。 ・ケース会議の時期を見直し、関係機関との連携の強化に努める。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	訪問介護事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	3・35点《達成率67%》 (関連機関との連携による総合的なサービス提供) ケース記録を毎月ケアマネに文書で報告し、月ごとの報告書も充実させた。 福祉課や訪問系サービスとの連絡も密に行なった。 (利用者のニーズに寄り添った援助に努める) 緊急の訪問にも出来る限り対応し、急なケア内容変更にも柔軟に対応出来た。 (利用者の意見や人格を尊重し、適切な介護をする) 利用者の精神的な安定に繋がる介護を心がけた。 ヘルパーによって意識にバラつきがあった。 (スキルアップと人材育成に努める) 内部研修は定期的に来たが、外部研修は充実できなかった。 (スタッフ間の連携をを密にし、記録を残す) 常勤ミーティングや定例会を通じて連携が取れた。電話連絡やメールでの伝達だけでなく、 文書に残すことが習慣づけされた。また、訪問系事業所全体の連携もとれた。 (スタッフの充実を図り、定着を目指す) 職員が辞めていき、定着が難しかった。
【今後の取り組み】	(関連機関との連携による総合的なサービス提供) 口頭や電話での連絡事項や報告事項を、文書に残し、ケアに役立てる。 (利用者のニーズに寄り添った援助に努める) 利用者のニーズに、より敏感に対応する。 (利用者の意見や人格を尊重し、適切な介護をする) 常に利用者の立場に立ちながら、ケアにあたる。 (スキルアップと人材育成に努める) 定期的な内部研修と共に、外部の研修にも積極的に参加する。 (スタッフ間の連携をを密にし、記録を残す) 今後も引き続き、口頭や電話での伝達事項を文書に残し、今後のケアに役立てる。 (スタッフの充実を図り、定着を目指す) 働きやすい環境を整える。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	訪問入浴介護事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	<p>4点≪達成率80%≫ (関係機関との連携によるサービス提供)</p> <ul style="list-style-type: none">・明るく丁寧な対応、コメントを多くいただいた。・スタッフ間の情報共有をノートにより深めケアの統一を図り、より個別性に添ったケアを実施している。・アンケートから82%は満足と回答、残り18%もだいたい満足と回答を得ている。・言葉遣い、態度、不安や恐怖心を与えていないか等のアンケートに82%は出来ていると回答を得ている。・パート職員は他の事業所との連携が十分に出来ていないと評価は低い、常勤職員の業務内容である為仕方がない。・常勤職員は家族や利用者の変化を感じた時は、他の関係機関への連絡は必ず行なっている。・ケアマネからも情報提供を受けているかや連携が出来ているかのアンケートに、80%は出来ていると回答を得ている。・時間通りの訪問について73%は出来ているとの回答を得ているが、ショートや入院などで訪問時間の変更をしたことがある。・利用者や家族からのサービス満足度は100%の回答を得ている。・ケアカンファレンスへの参加は、開催時間により職員の体制上困難なことが多く、参加率が低い。 <p>(衛生管理の徹底)</p> <ul style="list-style-type: none">・器材の洗浄、消毒は適正に確実に行なっている。・定期的な車両や入浴器材のメンテナンスは必ず行なっている。 <p>(職員の資質向上)</p> <ul style="list-style-type: none">・訪問入浴の研修は県外しかなく参加困難。・訪問入浴に関連する介護の研修が少ない。・医療度の高いケースがあり、訪問看護と連携して研修に参加した。
【今後の取り組み】	<p>(関係機関との連携によるサービス提供)</p> <ul style="list-style-type: none">・満足度が維持向上するよう利用者の要望や苦情に迅速に対応する。

- ・事業所間の連携を密にし、変化に対し早期発見、対応に努める。
- ・利用者の体調の変化や異常の早期発見、対応が出来るようにする。
- ・事業所の都合での時間変更は、できる限り避ける。
- ・訪問時間に遅れることのないようにする。
- ・ケアカンファレンスへの参加を積極的に行なうが、困難な場合は他の方法で対処する。

(衛生管理の徹底)

- ・入浴後の洗浄消毒の適正、確実さを徹底する。
- ・サービス提供者の手洗い、消毒を徹底する。
- ・水で濡らしたり、物を壊したりしないよう徹底する。
- ・スタッフ同士のスキルアップに努める。

(職員の資質向上)

- ・訪問入浴専門の研修に参加する。
- ・介護関係の研修にパート職員の参加を促す。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	訪問看護事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域の社会資源を活かしたネットワークづくり 地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	ネットワークづくりに向けた準備 広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	<p>4点《達成率80%》</p> <p>(在宅における24時間連絡体制の充実)</p> <ul style="list-style-type: none">・在宅での看取りは横ばいである。在宅で看取る事より、施設へ頼るとい社会情勢の傾向が見られる。24時間体制について約76%に周知できているが、24%が知らなかったと回答ある。リハビリだけの利用では必要性がないため、理解されていなかったのではと考える。・ケアマネ・医療機関とはアンケートの結果100%が連携できていると回答ある。 日々の状態報告、毎月の報告書の提出が連携を強化している。 また、退院時カンファレンス、病院主催の研修も在宅に向けて開催されており、医療機関が身近に感じ、親交も深まっている。 <p>(スタッフの研修・広報活動)</p> <p>〈研修などに参加し自己研鑽を図る〉</p> <ul style="list-style-type: none">・平日には時間内・外で内部研修を行ったり、外部研修にも積極的に参加している。 リハビリスタッフの加入により、リハビリの内部研修は充実し、有効であった。 内部研修6回、外部研修19回参加。 <p>〈利用者が期待するサービスを提供する〉</p> <ul style="list-style-type: none">・利用者アンケートの結果、93%が希望どおり、だいたい希望どおりのサービスを受けていると回答があった。また、中には希望以上でしたという意見もあった。 75%が病状が安定した。25%が普通。病状が悪化したと答えた方は無かった。「現状維持だけでも精一杯。悪化がなければよい。」という回答があった。 79%が介護負担が軽減し、自分の時間が持てるようになり、介護に対する不安が軽減したとの回答ある。100%、介護に対する不安を看護師に相談できると回答を頂いた。ただ、スタッフの異動の多さに戸惑う利用者の声もあった。 <p>〈リスクマネジメントの評価はできているか〉</p> <ul style="list-style-type: none">・些細なインシデントは報・連・相で終わり、インシデントレポートを提出していない事が多いが、その時々で対策を話し合い実行している。 <p>〈広報活動の実施〉</p> <ul style="list-style-type: none">・新パンフレットが完成し、各ケアマネや福祉課へ広報活動を行なった。 パンフレットは見やすいと好評を得ている。

【今後の取り組み】

(在宅における24時間連絡体制の充実)

- ・契約時に24時間体制の説明を徹底する。
- ・国は在宅医療を推進しており、その拠点となる医療機関と、地域包括支援センターと連携して、多種職による支援体制を構築し、継続的な在宅医療を目指している。
団塊世代の疾病の増加や、医療改革により、ますます医療度の高い在宅介護や、看取りが増加すると思われるので、より一層連携を強化していく。
病院主催の勉強会や地域の研修などに参加して、多種職との連携を深めていく。
- ・24時間体制を継続する。

(スタッフの研修・広報活動)

〈研修などに参加し自己研鑽を図る〉

- ・年間の研修計画に沿って、積極的に参加していく。
今後はリハビリスタッフの研修の取り組みを検討していく。

〈利用者が期待するサービスを提供する〉

- ・サービスを提供していく上で、信頼関係が最も重要である。良い人間関係が築けるように自己研鑽に努める。また、どのスタッフも同じレベルで異常の早期発見に努め、病状に応じた看護が提供でき、介護者への指導・アドバイス相談の対応ができ、安定した在宅医療が継続できるようスキルアップを図る。

〈リスクマネジメントの評価はできているか〉

- ・些細なインシデントもレポートを記入してスタッフで共有し、リスク管理をしていく。
記録しやすい用紙を検討し、スタッフに周知する事で事故に繋がらないようにする。

〈広報活動の実施〉

- ・新パンフレットを活用し、医療機関へも広報活動を継続していく。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	ケアホーム事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	障がい者就労支援ネットワークの強化 地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	就労のための環境づくりの支援 広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	<p>3. 5点≪達成率70%≫</p> <p>(住みやすい環境作りと季節行事の企画)</p> <p>職員がルールやマナーについての支援を行なうことが増え、利用者間の関係性向上に繋がった。外出の機会は少なかったが、食事会等のイベントは定期的に実施できた。創作活動など余暇支援により、本人の意欲を引き出すことができた。</p> <p>(共生型の施設作り)</p> <p>特定の利用者のみではあるが、日々の生活の中で、グループホーム利用者との関わりが継続できている。短期入所の定期的な利用は継続できていて、長期にわたる緊急的な利用も、町の担当者と相談しながら提供することができた。</p> <p>(各種研修等の充実と情報の共有)</p> <p>外部への研修については参加する機会が少なかったが、伝達講習等、内部研修の実施に努めた。ケアホーム内の職員同士の情報共有は円滑にできていたが、町や事業所長や相談支援従事者への報告、連絡、相談については不十分なところもあった。</p>
【今後の取り組み】	<p>(住みやすい環境作りと季節行事の企画)</p> <p>利用者個別に、共同生活する上の課題を明確にし、その課題に対し支援していく。より自立した生活になるように職員が働きかけ、自信に繋げていく。イベントは引き続き継続していき、障がいデイとも協力し、『創作活動』からより芸術性のある『作品作り』に転換できるように支援していく。</p> <p>(共生型の施設作り)</p> <p>特別な機会を職員が提供するのではなく、日々当たり前のように交流が生まれるような環境を作っていく、職員間の連携もさらに強化していく。短期入所について、現在利用していただいている方の依頼を受けつつ、職員体制に無理が無い範囲で、新規の受け入れや利用日の増加などに努めていく。</p> <p>(各種研修等の充実と情報の共有)</p> <p>技術や知識、制度についての研修に積極的に参加し、学んだ職員が伝達講習で全体化してスキルアップに繋げる。また、資格取得などの自主的な学びに意欲がもてる環境を作る。職員全員が、『支援の流れ』をしっかりと把握し、細かい情報でも共有化して、全体で統一した支援ができる体制を作る。</p>

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	特別養護老人ホーム事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実 地域に密着した新たなサービスへの取り組み
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実 地域密着型サービス事業の推進
【評価点】	3. 5点≪達成率70%≫ (ユニットケアの充実を図る) 個々の生活のリズムを大切にした取り組みに頑張った (地域に密着した交流活動の実施) 地域の行事や交流会に参加できている 地域や家族の方が気兼ねなく面会に来られている
【今後の取り組み】	(ユニットケアの充実を図る) 引き続き取り組んでいく (地域に密着した交流活動の実施) 引き続き地域住民との関わりに取り組んでいく

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	特別養護老人ホームショートステイ五湖の郷
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実 地域に密着した新たなサービスへの取り組み
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実 地域密着型サービス事業の推進
【評価点】	3点〈達成率60%〉 (ユニットケアの充実を図る) その人に応じた個性を尊重した対応がほぼできている (地域に密着した交流活動の実施) 家族への連絡表により正確に伝えることができた
【今後の取り組み】	(ユニットケアの充実を図る) 引き続き取り組んでいく (地域に密着した交流活動の実施) 今後も引き続き取り組んでいく

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	認知症対応型グループホーム事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実 地域に密着した新たなサービスへの取り組み
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実 地域密着型サービス事業の推進
【評価点】	3点<<達成率60%>> (共生型の施設作り) ケアホームの特定の利用者のみと交流がある状況が続き、合同のイベントも定期的には実施できなかった。職員同士の連携については、緊急時なども迅速に対応できていた。 (生きがいを持てる生活作り) 日々の生活の中で、個別に好みの活動を提供し、外食などのイベントも定期的にも実施して喜んでいただけた。役割を持っていただくことに関しては個人差があり、うまくいかない方もいた。 (地域に密着した交流活動の実施) 五湖の郷全体の交流会には参加できていたが、部署単位での交流活動が実施できなかった。ボランティアや実習の受け入れに関しては、前年度と同じような実績だった。
【今後の取り組み】	(共生型の施設作り) 特別な機会を職員が提供するのではなく、日々当たり前のように交流が生まれるように、ケアホームの入居者がグループホームに来やすい環境を作っていく。 職員間の連携もさらに強化していく。 (生きがいを持てる生活作り) 個別の活動やイベントに関しては継続して実施していく。今後は、ご家族との連携を強化し、その関わりの中から、ご本人の生きがいにつなげていく。 (地域に密着した交流活動の実施) 散歩などの機会を増やし、地域に出る機会を多く持つ。また、家族やボランティアをはじめとした地域住民との関わりを多く持ち、開かれた施設作りに努める。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成25年度社協事業)

【事業名】	小規模多機能型居宅介護事業(ほたる熊川宿)
【基本目標】	助け合い共生しあう地域を育てる 充実した生活を支える
【取り組み内容】	身近な支え合い体制の推進 安心して子育てできる環境づくり 地域で集える場づくりの支援 地域の社会資源を活かしたネットワークづくり 安心安全な食の提供 地域に密着した新たなサービスへの取り組み
【期待される役割】	集落内の支え合い体制づくりの推進と支援 要介護者の困りごとを解決するシステムづくりへの協力と研究 集落内の支え合い活動への協力や支援 集落内だけでは解決できない課題への対応 世代間交流の推進 空き家の福祉的利活用について検討 ネットワークづくりに向けた準備 身近な地域での配食サービス体制づくり 空き家の福祉的利活用 地域密着型サービス事業の推進
【評価点】	4・25点《達成率85%》 (一人ひとりの「思い」「願い」「生活リズム」を大切にケアの提供) 職員の半数近くが新しい職員となり、個別の思いを十分に把握しきれていない部分があるため。 (自宅に24時間・365日の安心を届ける継続的支援) 通いもみんなが同じ過ごし方でなく、それぞれ個別に対応。訪問もその日の利用者の様子に合わせて変化させており、チームワークを強化し情報共有がうまくできている。急な宿泊にも対応できている。地域の協力も得られた。 (介護の「困った!」に対応する技術の習得と提供) 利用者・家族・職員の間風通しが良く、お互いに話しやすい状況にある。そのため困りごとや不安なども把握・対応しやすいが、まだ技術面においては不十分な点がある。 (地域のみんなで検討する機会の確保) 運営推進会議や地域行事ではほたるの施設開放をした結果、地域の生の声をたくさん聞くことができた。3年経過して地域の人も職員の顔を覚えて気軽に声をかけてくれるようになってきている。
【今後の取り組み】	(一人ひとりの「思い」「願い」「生活リズム」を大切にケアの提供) 利用者・職員ともに顔なじみになってきているので、利用者一人ひとりと職員一人ひとりがお互いに共通の思いを持ちながら熊川地区で過ごしていけるように支援していく。 (自宅に24時間・365日の安心を届ける継続的支援) 地域の協力においては、まだまだ不十分な点があるので今後力をいれ、ほたるだけの力でなく、地域の力を利用した継続的支援を目指していきたい。 (介護の「困った!」に対応する技術の習得と提供) 介護度の重度化に伴う、介護技術のスキルアップ。介護技術はまだまだ学ぶべき所が大

いにある。お互いに顔なじみとなってきた状況であるので、再度気を引き締めお互いなれ合いの関係にならないようなケアの提供に努める。

(地域のみんなで検討する機会の確保)

地域行事へ参加をすることで地区の人とより近い関係になる事ができるので、地域行事への積極的参加、地域交流を図っていく。馴染みの関係がなれ合いの関係にならないように職員教育を図る。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】	小規模多機能型居宅介護事業(みさき)
【基本目標】	助け合い共生しあう地域を育てる 充実した生活を支える
【取り組み内容】	身近な支え合い体制の推進 安心して子育てできる環境づくり 地域で集える場づくりの支援 地域の社会資源を活かしたネットワークづくり 安心安全な食の提供 地域に密着した新たなサービスへの取り組み
【期待される役割】	集落内の支え合い体制づくりの推進と支援 要介護者の困りごとを解決するシステムづくりへの協力と研究 集落内の支え合い活動への協力や支援 集落内だけでは解決できない課題への対応 世代間交流の推進 空き家の福祉的利活用について検討 ネットワークづくりに向けた準備 身近な地域での配食サービス体制づくり 空き家の福祉的利活用 地域密着型サービス事業の推進
【評価点】	3. 4点≪達成率68%≫ (PR活動の実施) 事業所のPRを目的に、サービス対象地域を隈なく歩きまわり、地域の方へ声掛けをさせて いただいた。 (地域交流活動の実施) 開所間もなく、小学校との交流会を実施したり、観光組合の方と一緒に海岸の掃除へ参 加することができた。また、今年度よりつくられた地域づくり協議会のイベントにも参加する ことができた。 (在宅生活を続けていくための支援をおこなう) 緊急のデイサービス利用や宿泊・訪問サービス提供をおこなうことができた。
【今後の取り組み】	(PR活動の実施) 定期的な広報誌の作成をおこなう。 (地域交流活動の実施) 事業所主催のイベントを開催する。 (在宅生活を続けていくための支援をおこなう) 訪問サービスの充実をはかる。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】 障がい者・児相談支援センター五湖の郷

【基本目標】

【取り組み内容】

【期待される役割】

【評価点】

3点《達成率60%》

(定期的な訪問及びニーズの確認)

電話、来所による定期的なニーズの確認等を行なっていたが、全ての利用者に対する訪問は行なえていなかった。

(障がい福祉サービスの利用における十分な説明等)

障がい福祉サービスの内容について、利用者及び家族側が理解できる説明が足りなかった。

(利用者のニーズに応じた障がい福祉サービスの変更、中止等の迅速な対応)

利用者のニーズに応じて、サービス担当者会議を開催し、関係者等と連携を行なった。

(相談支援におけるスキルアップのための研修に参加)

内部研修も含め、外部研修の機会を増やし、他の相談支援事業所との意見交換、情報共有を行なった。

(各種サービス事業者、地域、行政、医療機関との連携〈ケア会議等も含む〉)

各種会議等で関係機関や関係事業所との連携を図っている。

(不足している社会資源の発掘及び自立支援協議会の活用、連携等)

自立支援協議会に困難事例を提出し、地域課題としての検討を行なった。

【今後の取り組み】

(定期的な訪問及びニーズの確認)

電話、来所だけでなく定期的な訪問の機会を増やしていく。

(障がい福祉サービスの利用における十分な説明等)

障がい福祉サービス全般における相談を随時受け付け、ワンストップ相談窓口を目指す。

(利用者のニーズに応じた障がい福祉サービスの変更、中止等の迅速な対応)

個々のニーズを迅速にキャッチし、関係機関等と連携及び必要なサービスの提案を行政等に働きかけていく。

(相談支援におけるスキルアップのための研修に参加)

各種研修への積極的参加と新法及び制度等の学習。

(各種サービス事業者、地域、行政、医療機関との連携〈ケア会議等も含む〉)

地域における支援機関等との更なる連携の強化。

(不足している社会資源の発掘及び自立支援協議会の活用、連携等)

地域課題を抽出できる場として、自立支援協議会等の活用をはかる。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】 生きいきふれあい館管理事業

【基本目標】

【取り組み内容】

【期待される役割】

【評価点】 4点≪達成率80%≫
(ニーズへの迅速な対応による利用者の満足度向上)
運営委員会や利用者からの要望には、運営側としてある程度応えられた。
(運営者、利用者の相互認識による施設の美化)
定期的なトイレ清掃、運営委員、利用者側自らの施設清掃意識があった。

【今後の取り組み】 (ニーズへの迅速な対応による利用者の満足度向上)
25年度同様、ニーズには迅速に応えて、必要備品等も取り揃える。
(運営者、利用者の相互認識による施設の美化)
25年度同様、美化に努める。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】 災害ボランティアセンター運営事業

【基本目標】

【取り組み内容】

【期待される役割】

【評価点】

2・4点≪達成率48%≫

(災害時に備えた日常的な各関係機関・住民との連携・ネットワークづくり)

協定などを通して県内外社協との連携はできていたが、町や住民との日頃からの連携に向けた具体的な取り組みには至っておらず、災害VC立ち上げも遅れた。

(災害発生時の住民参加による支援体制づくり)

災害発生後は、復興応援窓口の開設やボランティアの日などを通して、被災者への継続的支援と住民の災害に対する意識向上はある程度できた。しかし、災害発生直後においては、住民や各関係機関とうまく連携ができず、情報が錯綜し、災害VCの立ち上げが遅れスムーズな運営には至らなかった。

(災害時に備えた社協の組織力強化・体制づくり)

防災訓練等で緊急時職員間連絡訓練は行なっておりスムーズにできていたが、災害時は部署によって差があったりと、訓練同様にはできていなかった。また、災害時の職員体制や指揮系統が弱い。

【今後の取り組み】

(災害時に備えた日常的な各関係機関・住民との連携・ネットワークづくり)

(災害発生時の住民参加による支援体制づくり)

・災害ボランティアセンター連絡会(仮称)の立ち上げ

・町防災訓練への参画

(災害時に備えた社協の組織力強化・体制づくり)

・緊急時の職員間の連絡体制の確立、徹底

・災害時の社協としての対応方法の明確化

・指揮系統の確立

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】 職員体制強化計画

【基本目標】

【取り組み内容】

【期待される役割】

【評価点】 2・8点〈達成率56%〉
(1. 業務内容見直しによる体制の強化)
法人本部運営事業に法人本部長を設置。
本部機能の強化を図りました。
(2. 福祉サービス提供等事業実施に必要な職員の確保)
事業を廃止することなく、人事異動や公募により人材を確保しました。
(3. 職員の専門性を高めるための各種資格取得)
大幅にサービスの質が向上するほどの成果は得られませんでした。
(4. 人事評価制度)
非正規職員を含む全職員を対象に評価を実施し、経営効率を上げるための職員の資質向上とモチベーション向上に努めました。

【今後の取り組み】 (1. 業務内容見直しによる体制の強化)
月次ごとに事業運営における課題と対応策を明確にし、早期に対応します。
(2. 福祉サービス提供等事業実施に必要な職員の確保)
人材確保が困難な職種については、日常的に情報収集を行います。
(3. 職員の専門性を高めるための各種資格取得)
資格取得意欲を高めるために、処遇面における反映を検討します。
(4. 人事評価制度)
経営効率の向上につながる評価を目指し、より公正な評価を検討します。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成25年度社協事業)

【事業名】 安定的な財政運営

【基本目標】

【取り組み内容】

【期待される役割】

【評価点】

2. 9点《達成率58%》

(1. 適正な予算・実績管理)

会計システムの入替により、必要な情報をいつでも閲覧できるようになり、今まで本部で管理していた経費等も把握できるようになったため、事業の実態をより正確に把握できる環境になりました。また、会計研修の実施により予算・決算に関する理解度も高まり、3次補正予算についてはかなり正確に実績を反映させることができました。

(2. 中長期的な収支計画の策定)

小規模みさき開所に際し、3カ年計画を策定しました。

(3. 一般会費・特別会費の推進)

前年度まで事業所募金を依頼していた企業を中心に、理事・職員がペアになり特別会費の推進を行いました。実績として、加入件数が増加しました。

【今後の取り組み】

(1. 適正な予算・実績管理)

今まで以上に正確な予算管理を行い、事業計画で定めた目標以上の実績を達成できるよう管理者ひとりひとりのスキルアップを目指していきます。

(2. 中長期的な収支計画の策定)

社協全体としての中長期的な収支計画は現在作成しておりません。見通しを具体的に数値化していきたいと思えます。

(3. 一般会費・特別会費の推進)

今後も、特別会費の意義を十分に説明し、協力してもらえよう推進していきます。

若狭町社会福祉協議会発展強化計画

【使命】

理想の福祉を追求します

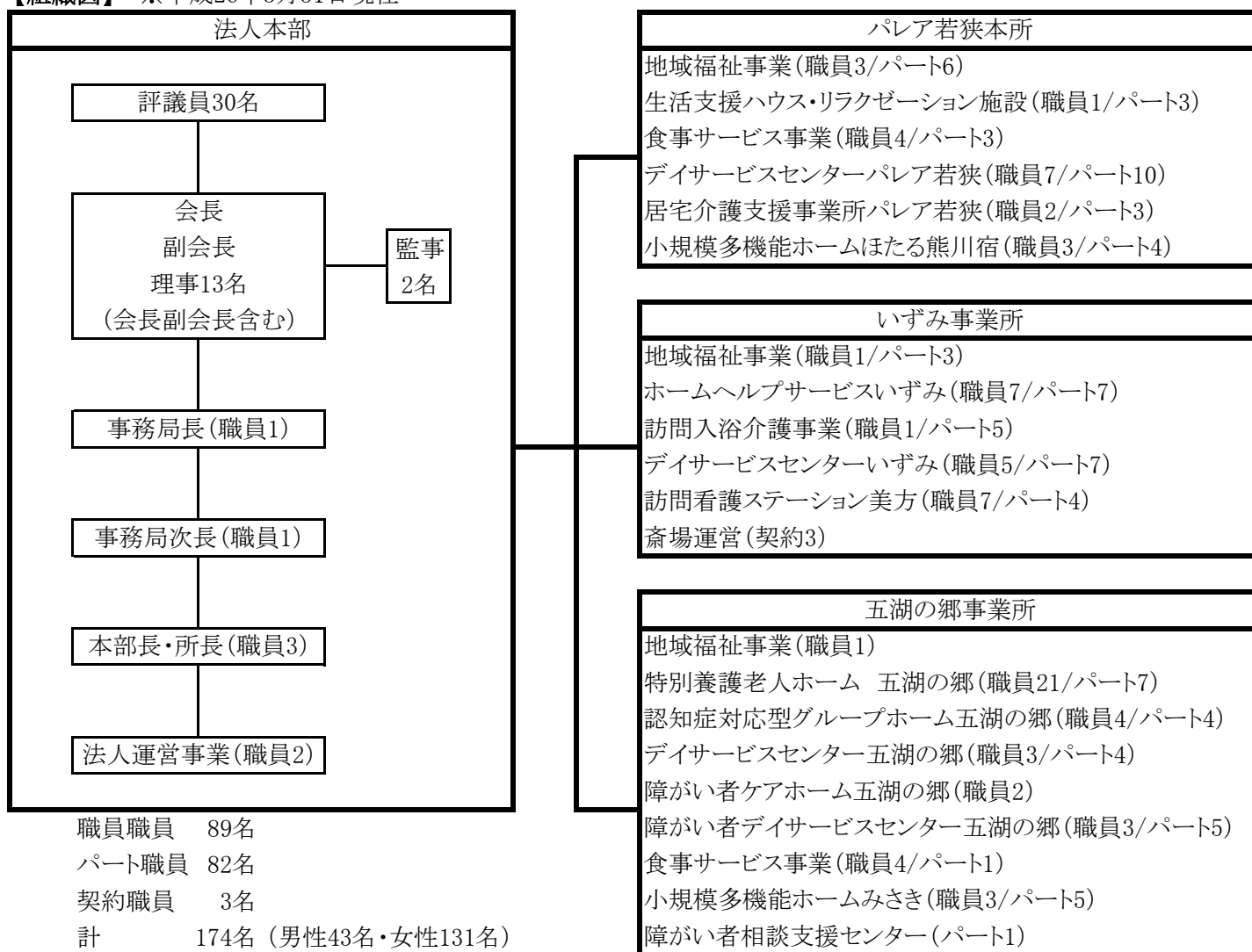
【組織理念】

1. 私たちは、地域と共に歩みます
2. 私たちは、希望ある未来への礎となります
3. 私たちは、信頼され愛され続けるためにたゆみない努力と挑戦を続けます

【スローガン】

声をかたちに

【組織図】 ※平成26年3月31日現在



【財政状況】

※平成26年3月31日現在

(単位:円)

若狭町社会福祉協議会	収入総額	支出総額	差額
	670,869,805	674,034,194	△ 3,164,389